

第3章 添田町の将来像

1. 添田町の将来像

本町は霊峰英彦山^{ひこさん}の山懷に抱かれながら、山間部の英彦山門前をはじめとする英彦山山麓や里山の集落、添田本町等^{そえだほんまち}の平野部において、豊かな歴史文化を育んできた。

こうした本町の歴史文化の証となるのが文化財である。町内には、英彦山周辺を中心に、有形・無形を問わず、多種多様な文化財が存在し、地域の人々の営みの中で、守り、伝えられてきた。

一方、人口減少・少子高齢化によって、維持が困難となる文化財も増えており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、継承が危ぶまれる祭礼や民俗芸能もある。

本町は、文化財の保存・活用によるまちづくりの将来像に「英彦山とつながる歴史文化と人の営みを通じた、交流と活力のあふれるまち」を掲げる。

まず、地域住民、行政、文化財所有者等、町内外の民間の活動団体等、学術機関等が連携して英彦山を中心とした文化財の保存・活用に取り組む。そして、町内各地の文化財は英彦山に縁があるものが多いため、文化財の保存・活用と英彦山を関連付け、ネットワーク化し、取組みの効果を町全体に波及させる。これらの取組みを継続することで、現代における英彦山と本町全体の歴史文化、人の営みのつながりをつくり、住む人と訪れる人が、それら文化財を通じて添田町に愛着を持ち、交流と活力のあふれるまちの実現を目指す。

< 添田町の将来像 >

**英彦山とつながる歴史文化と人の営みを通じた、
交流と活力のあふれるまち**

2. 将来像の実現に向けた基本的な4つの柱

添田町の将来像「英彦山とつながる歴史文化と人の営みを通じた、交流と活力のあふれるまち」の実現に向けて、「（１）文化財の調査」、「（２）文化財の保存」、「（３）文化財の活用」、「（４）文化財の保存活用の体制」の4つを基本的な柱として整理し、本町の文化財の保存・活用を推進する。

（１）文化財の調査

・文化財を把握し、文化財の保存・活用を進めるための基礎的な情報を整理する

（２）文化財の保存

・町の歴史文化を未来に伝え、文化財を活用するために文化財を保存する

（３）文化財の活用

・文化財の価値を伝え、地域に交流と活力を生み出すために文化財を活用する

（４）文化財の保存・活用の体制

・地域内外の文化財に係る関係者と連携し交流の輪を広げ、文化財の保存・活用のための体制を構築する